

言語理解と行動制御
実時空間における言語と行動
の統合的モデルへ

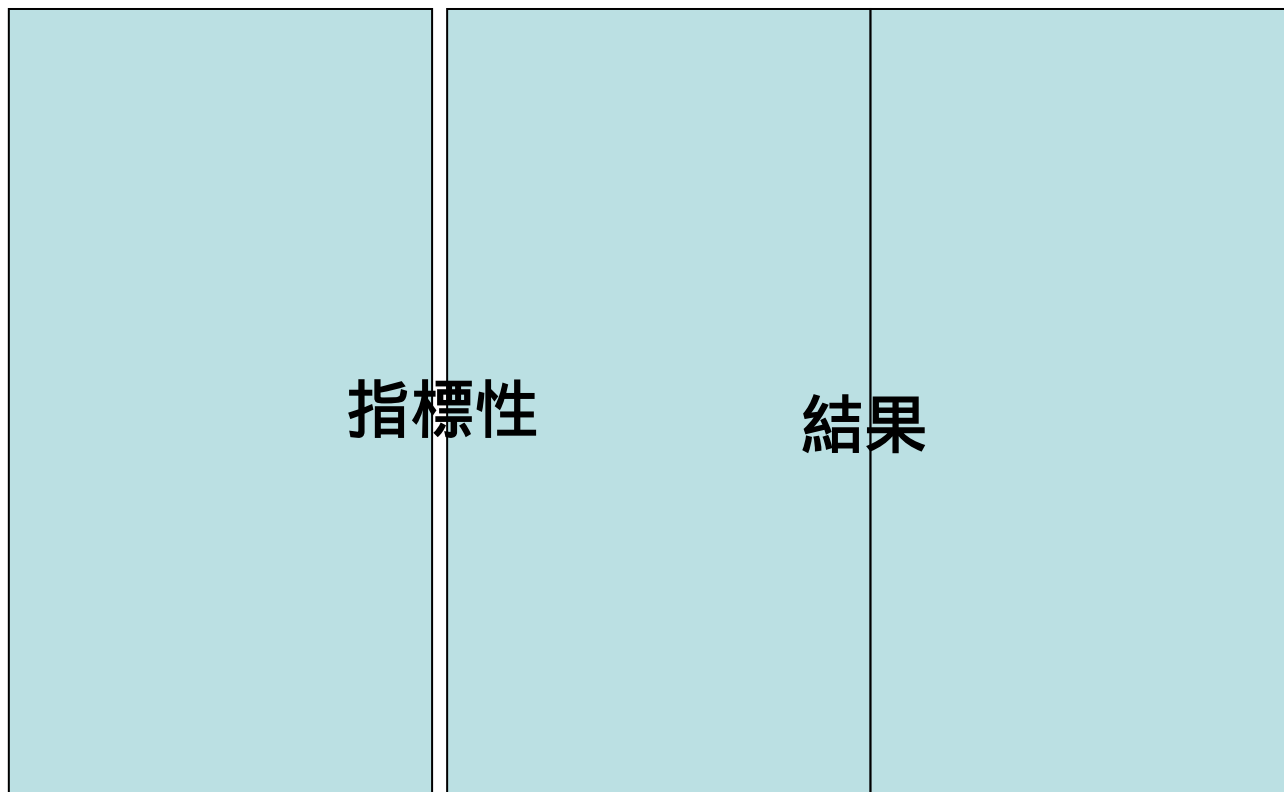
土屋俊
(千葉大学)

モデルのイメージ

- 古典的部分
 - 言語を使って指示を出す
 - 指示を理解して行動する
- 新しい部分
 - 指示を出す言語が「リアル」である
 - 音声で同時に脈絡(コンテクスト)のなかで
 - 指標的(indexical)/egocentric/(unarticulated parameters)
 - 行動が「リアル」である
 - 実時間・実空間(をモデル化したもの)
 - 言語的に制御できない「結果」を伴う(言語)行為

その理論的課題

- 言語に関する理論的課題
 - 非「文法的」文の発話とその理解
 - 指標的・文脈的意味論・語用論(認知言語学)
- 言語行動に関する理論的課題
 - 言語を使って行動(指示、命令)するのはなぜか
 - 言語行動の結果とは何か
- 認知・行動・言語のインターフェイス
 - 共通するframeの検討



指標性

結果

認知

言語

行動

「指示」の考察の意味

- 行動が応答
 - 対話ではない
 - これまでもそうなはずなのに、、、??????
 - 回答は言語ではないが、聞き返しなどはある
- 言われたことをやることは、指示に従うことではない
 - 「馬の後ろに行け」と言われて、「足を前へ出す」
 - 結果についての考察
 - 行動の理由についての考察

今年度の課題：

- 空間の認知と表現
 - 楠見
- 言語による行為とその結果
 - 三好
 - 山田
- 認知・行動主体による言語
 - 丸山
 - 辻
 - 山梨

